

# 環境活動レポート

平成28年度

活動期間 平成28年9月～平成29年8月



第10版

発行日 平成29年12月1日

株式会社 栄和土木

## 目 次

1.	①組織の概要、②対象範囲、レポートの対象期間及び発行日	1
2.	③環境方針	2
3.	④環境目標	3
4.	⑤環境活動計画	4
5.	環境推進組織図	5
6.	⑥環境目標の実績	6
7.	⑦環境活動計画の取組結果	8
8.	⑦取組結果の評価、次年度の取組内容（責任者評価）	9
9.	⑧環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果	10
10.	⑨違反、訴訟等の有無。環境コミュニケーション記録	11
11.	緊急事態の想定及び対応手順	12
12.	教育・訓練の実施	13
13.	⑩代表者による全体評価と見直しの結果	14

**① 組織の概要**

・ 事業所及び代表者氏名	株式会社 栄和土木 代表取締役 金谷国政
・ 事業所所在地	本 社 静岡県駿河区広野3-1-4 資材置場 静岡県駿河区広野6-2-1
・ 環境管理責任者氏名	常務取締役 金谷太一
・ 担当者連絡先	TEL : 054-259-6885 FAX : 054-258-9805 E-mail : kanaya@eiwadoboku.co.jp
・ 事業内容	土木・管工事の請負・施工及び監理業、 不動産の売買・仲介・賃貸借及び管理業、保険代理業
・ 設 立	1970年(昭和45年)三友土木 1979年(昭和54年)株式会社 栄和土木
△ 資本金	2,500万円
・ 売上高	83百万円(平成28年度)
・ 従業員数	10名(12月現在)
・ 事務所床面積	47.04㎡
△ 許可の内容	・ 特定建設業許可 (土木、ほ装、水道施設工事業等)
② 対象範囲	・ 許可番号 : 静岡県知事許可 (特-23)第17814号 ・ 許可番号 : 静岡県知事許可 (般-25)第17814号 ・ 産業廃棄物収集運搬許可番号 : 062 0 1 066205 (受託実績はありません) ・ 宅地建物取引業者免許 : 静岡県知事 (1)第13275号 ・ 保険代理店業
② 対象期間	平成28年9月1日から平成29年8月31日
② 発行日	平成29年12月1日

### ③ 環境方針

#### 基本理念

株式会社 栄和土木は、土木建設事業と環境との調和・共存を図り、自然環境を守り地域社会への貢献に努め、環境保全活動に積極的に取り組みます。

#### 行動指針

1. 地球環境保護のため、二酸化炭素排出量の低減に努める。
2. 廃棄物の削減。
3. 環境関連の法律を厳守する。
4. 全社員に環境に関する教育を行い、環境保全の意識を高める。
5. 水の使用については、井戸水（従業員手洗い）の為、無駄のないようにする。
6. 環境への負荷ができるだけ少ないものを選んで購入する。  
(グリーン購入) 平成23年追記

本方針は、会社組織で働く全ての社員に周知徹底すると共に、社会一般に公表します。

平成19年 9月 1日 制定

平成23年 9月 1日 改定

株式会社 栄和土木  
代表取締役 金谷国政 印

## ④ 環境目標

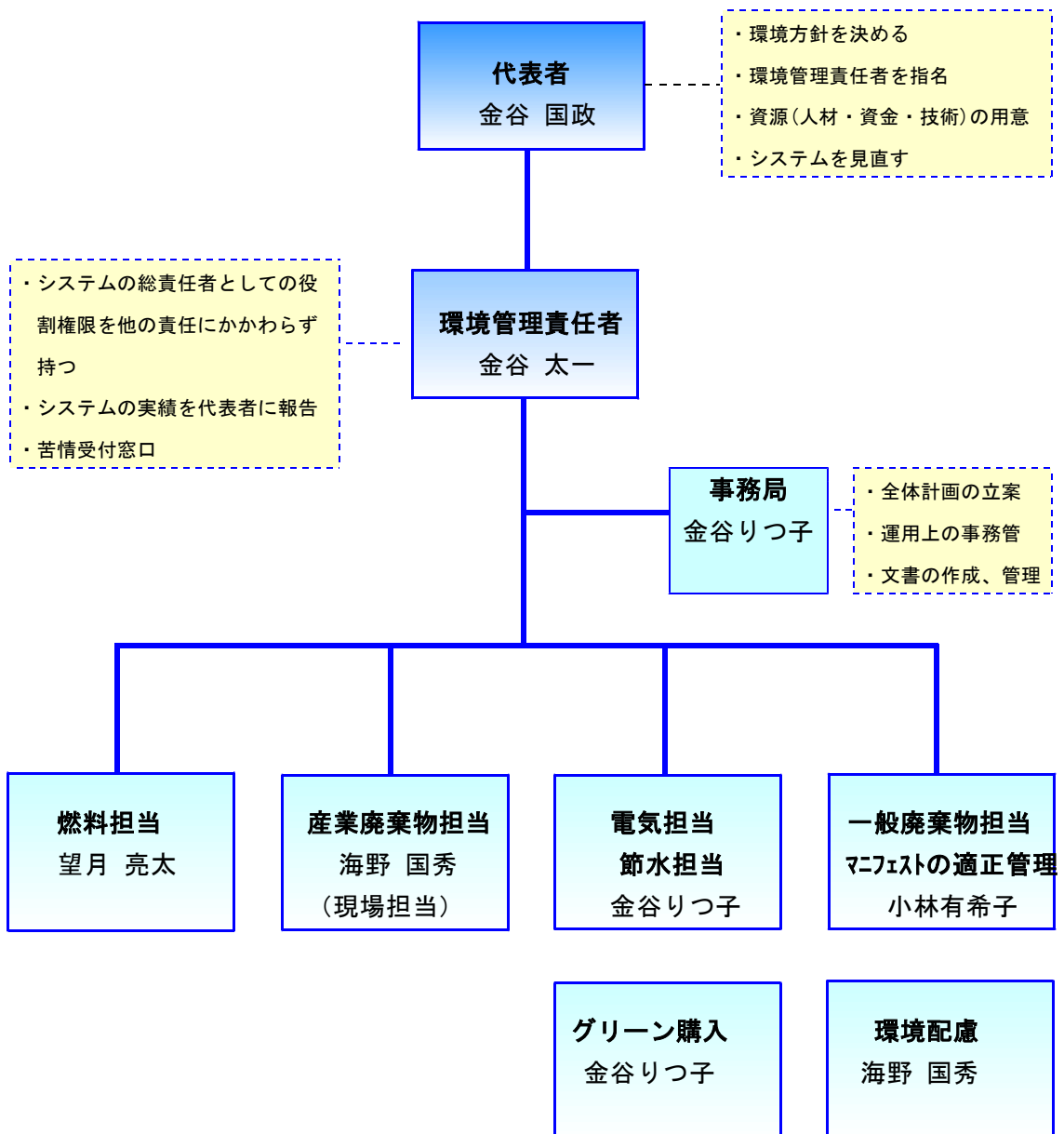
- ①当社における、二酸化炭素排出量の多い項目は、重油、軽油、ガソリン、次いで、電気の順でした。少しでも無駄をなくして、環境にもたらず二酸化炭素排出量（電気・燃料）を減少させます。
- 現場の場所や工事内容で単に、多い少ないは、判断できませんが、変動費である燃料使用量を昨年度より工事高百万円に対する値としています。
- ②資源投入量の削減をすると共に、廃棄物に分別リサイクルの向上を目標とします。
- ③水使用は節水弁等で対応する。水の削減については全て地下水であり、使用量は生活系のみ少量なので目標値を定めていない。

区分	平成26年度基準 (H26.9~H27.8)	27年度目標 (H27.9~H28.8)	28年度目標 (H28.9~H29.8)	29年度目標 (H29.9~H30.8)
二酸化炭素排出量	二酸化炭素排出量 33,371 Kg-CO <sub>2</sub>	平成26年度維持 33,371 Kg-CO <sub>2</sub>	平成26年度維持 33,371 Kg-CO <sub>2</sub>	平成26年度維持 33,371 Kg-CO <sub>2</sub>
	電気使用量 6,694 kw	平成26年度維持 6,694 kw	平成26年度維持 6,694 kw	平成26年度維持 6,694 kw
	燃料使用量 68.63 L 工事高百万当たり	平成26年度維持 68.63 L	平成26年度維持 68.63 L	平成26年度維持 68.63 L
産業廃棄物排出量	リサイクル 100 %	産業廃棄物のリサイクル率 100 %	産業廃棄物のリサイクル率 100 %	産業廃棄物のリサイクル率 100 %
一般廃棄物量削減	可燃ゴミ 推定 0.288 t	平成26年度維持 約 0.288 t	平成26年度維持 約 0.288 t	平成26年度維持 約 0.288 t
資源投入量削減	紙 約3,294枚	平成26年度維持 約3,294枚	平成26年度維持 約3,294枚	平成26年度維持 約3,294枚
グリーン購入	クラフト封筒、スティックのり。他エコマーク品購入。リストアップ。 次年度より品目を増やしていく。事務用品全体の購入金額比率を数値化する。			
環境配慮	作業効率の向上、重機燃料有効活用、資材の節約。 アイドルングストップ。			

## ⑤ 環境活動計画

取組内容		手 順	担当者
二酸化炭素排出量削減	電気使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エアコン温度の適正管理をする</li> <li>・休憩、外出時のこまめな消灯</li> <li>・普段使用しない電気製品のコンセントを抜く</li> <li>・エアコンフィルターの清掃を行う 室外機（2回/年）</li> </ul>	金谷りつ子
	車両・建設機械の燃料使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>・急発進・急ブレーキの禁止</li> <li>・アイドリングストップの徹底</li> <li>・現場に行く時は乗り合わせる</li> <li>・燃料使用量、走行距離の把握</li> </ul>	望月 亮太
産業廃棄物量削減	産業廃棄物削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工事現場での分別の徹底</li> <li>・適正なりサイクル業者への搬送</li> <li>・再生材の利用促進</li> <li>・マニフェストの適正管理</li> </ul>	海野 国秀
一般廃棄物量削減	一般廃棄物削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分別箱を設置し分別を徹底する</li> </ul>	小林有希子
	紙資源削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コピー仕損じは廃棄しない (社内書類は裏紙使用を徹底)</li> </ul>	
水	<ul style="list-style-type: none"> <li>・節水弁等で対応する。</li> </ul>		金谷りつ子
グリーン購入	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境への負荷ができるだけ少ないものを選んで購入する。</li> <li>・リストアップして品目を増やす。</li> <li>・エコマーク品の購入。</li> </ul>		金谷りつ子
環境配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>・8割は環境負荷の少ない機械を適切に使用する。</li> </ul>		海野 国秀

**環境推進組織図**



## ⑥ 環境目標の実績（26年度基準）

区分	平成26年度 (H26.9~H27.8)	28年度目標 (H28.9~H29.8)	28年半期実測値 (H28.9~H29.2)	結果	28年度実測値 (H28.9~H29.8)	結果
二酸化炭素排出	二酸化炭素排出量 33,371 Kg-CO <sub>2</sub>	平成26年度維持 33,371Kg-CO <sub>2</sub>	平成26年度維持 8686.092Kg-CO <sub>2</sub>	○	平成26年度維持 15,380Kg-CO <sub>2</sub>	○
	電気使用量 6,694 kw 事務所	平成26年度維持 6,694 kw	平成26年度維持 2795kw	○	平成26年度維持 5416kw	○
	燃料使用量 68.63 L 売上高百万当たり	平成26年度維持 68.63 L	平成26年度維持 36.10L	△	平成26年度維持 62.91L	○
産業廃棄物排出量	リサイクル 100 %	産業廃棄物のリサイクル率 100 %	産業廃棄物のリサイクル率 100%	○	産業廃棄物のリサイクル率 100%	○
一般廃棄物排出量	可燃ゴミ 推定 0.288 t	平成26年度維持 約 0.288 t	平成26年度維持 約 0.142 t	○	平成26年度維持 約 0.559 t	△
資源投入量の削減	紙 約3,294枚 A4 換算	平成26年度維持 約3,294枚	平成26年度維持 約2,316枚	△	平成26年度維持 約5,524枚	△
グリーン購入	クラフト封筒、スティックのみ。他エコマーク品購入。リストアップ。次年度より品目を増やしていく。					
環境配慮	作業効率の向上、重機燃料有効活用、資材の節約。アイドリングストップ。					

\* 今期の電力会社の排出係数。(26年度 中部電力 0.497Kg-CO<sub>2</sub>/kWh)

\* 水の削減については全て地下水であり、使用量は生活系のみの少量なので目標値を定めない。

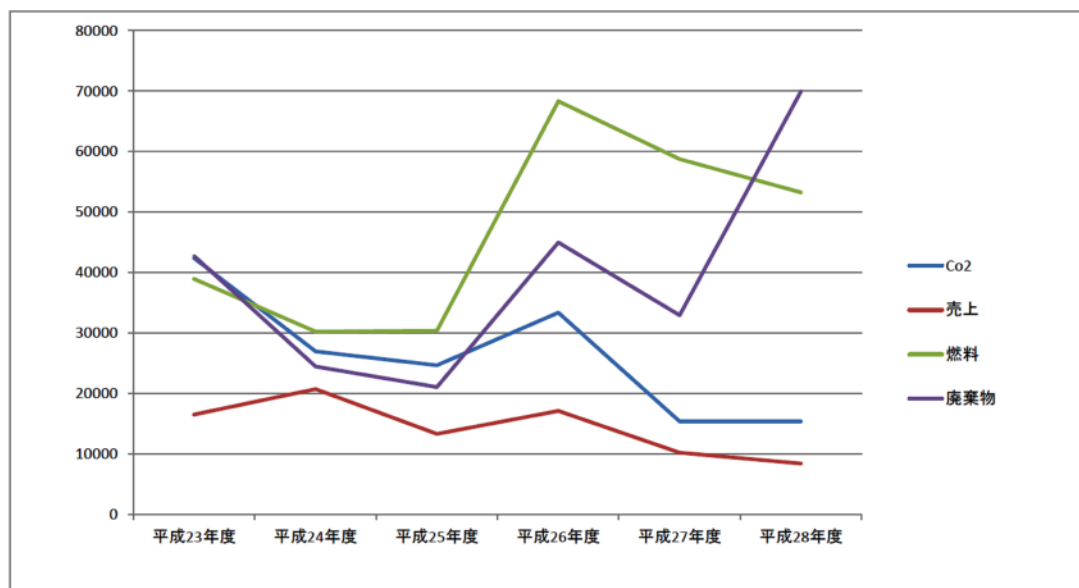
\* ○=達成 △=未達



平成28年度 実績詳細

	9月	10月	11月	12月	1月	2月	前期	3月	4月	5月	6月	7月	8月	後期	年間
従量電灯															
平成26年度															
目標値	863	577	486	643	925	941	4435	885	696	488	456	711	1064	4300	8735
累計値							3368								6964
平成28年度															
実績値	422	395	357	460	558	603	2795	558	543	366	308	388	458	2621	5416
累計値	422	817	1174	1634	2192	2795		3353	3896	4262	4570	4958	5416		5416
ガソリン	130.69	245.32	191.62	233.28	276.71	334.55	1412.2								0
軽油	67.9	0	153.55	123.45	129.21	60.65	534.76	133.98	51.58	0	187.03	136.37	74.34	583.3	1118.1
灯油	814	0	40	20	75.39	100	1049.4	40	80.02	40	40	0	78.78	278.8	1328.2
A重油							0							0	0
合計	1012.6	245.32	385.17	376.73	481.31	495.2	2996.3	173.98	131.6	40	227.03	136.37	153.12	862.1	3858.4
*	12.2	2.9557	4.6406	4.5389	5.7989	5.9663	36.1	2.0961	1.5855	0.4819	2.7353	1.643	1.8448	10.387	46.487
平成26年*															
目標値	3.9744	3.6595	3.7529	3.9965	5.9515	6.7384	28.073	5.4996	7.6673	5.8807	7.1615	4.9677	6.3255	37.502	65.576
累計値							92.03								68.63
平成28年*															
実績値	12.2	2.9557	4.6406	4.5389	5.7989	5.9663	36.1	2.0961	1.5855	0.4819	2.7353	1.643	1.8448	10.387	46.487
累計値	12.2	15.156	19.796	24.335	30.134	36.1		38.196	39.782	40.264	42.999	44.642	46.487		

\*売上高百万当たりの28年度(83百万)  
26年度(171百万)



縦軸単位は CO2 = kgCo2、売上高=万円、燃料 = MJ、廃棄物 = 10 kg

## ⑦ 環境活動計画の取組結果

環境目標	二酸化炭素量削減		廃棄物排出量削減		資源の削減
	電気使用量の削減	車両機械の燃料削減	産業廃棄物削減	一般廃棄物削減	
活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ エアコン温度の適正管理</li> <li>・ 休憩、外出時のこまめな消灯</li> <li>・ 使用しない電気製品のコンセントを抜く</li> <li>・ エアコンフィルターの清掃</li> <li>・ 急発進急ブレーキの禁止</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 工事現場での分別徹底</li> <li>・ 適切なリサイクル業者への搬送</li> <li>・ 再生材の利用促進</li> <li>・ マニフェストの適正管理</li> <li>・ 一般廃棄物については再資源化率 90 % 以上を推移。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ コピー仕損じの裏紙使用</li> </ul>
結果 (備考)	平成28年9月~2月 (6ヶ月)		平成28年9月~2月 (6ヶ月)		平成28年9月~2月 (6ヶ月)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 目標値 15,612 Kg-CO<sub>2</sub></li> <li>・ 実績値 8686.092Kg-CO<sub>2</sub></li> </ul>		再資源化率 100 % を達成できた。		コピー仕損じの裏紙使用や書類の電子化等により削減への意識は高まっている。再生紙の100%導入にしたため紙資源投入量は減少した。
原因	平成28年9月~8月 (12ヶ月)		平成28年9月~8月 (12ヶ月)		平成28年9月~8月 (12ヶ月)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 目標値 31,223 Kg-CO<sub>2</sub></li> <li>・ 実績値 15,380.60Kg-CO<sub>2</sub></li> </ul>		同上		同上
原因			産業廃棄物に関しては100%達成で今後も適正処理をしていかなければならない。一般廃棄物は23年度の数値に正確性がなかったので、基準年度を26年度に変更。		社内文書等のコピー仕損じの裏紙使用を徹底する事により紙資源使用量は減少している。今後も徹底していく。

**⑦ 取組結果の評価と次年度の取組内容****今年度の変更点**

平成29年11月24日

責任者 金谷太一

- 22年度より現場電気 使用量は比較対象とはせず、事務所の電力のみを比較対象としている。尚、現場のデータは継続して記録している。
- 今期の電力会社の排出係数。(26年度 中部電力 0.497kg-CO2/kwh)  
平成26年度と比較の為に、26年度の排出係数を用いる事とした。

**電気使用量**

- ・原因 事務所の電気使用量は減少した。

- ・処置 引き続き省エネ活動を徹底していく。  
休憩、外出時のこまめな消灯

**車両燃料使用量**

- ・原因 燃料使用量は当社で最も二酸化炭素排出量に影響をあたえている。

- ・処置 引き続きエコドライブの実地を促す。

**産業廃棄物排出量**

- ・原因 産業廃棄物排出量の管理体制は整っている。

- ・処置 引き続き適正管理を行っていく。

**一般廃棄物排出量**

- ・原因 貯めていた新聞紙の排出で多くなった。

- ・処置 処分基準でなく、投入基準に変えていく。

**資源投入量の削減**

- ・原因 紙使用量は官公庁等の提出書類以外は裏紙使用をしている。

- ・処置 引き続き裏紙使用を行っていく。

**グリーン購入**

- ・処置 環境への負荷ができるだけ少ないものを選んで購入する。実績を基に品目を追加。

**環境配慮事業**

- ・処置 作業効率の向上、設計等の検討。結果を取り込む。地域貢献を年間1件以上する。

## ⑧ 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果

当社の関連する主な環境法規制と、その対応状況は下記のとおりです。

「○」＝遵守確認

「—」＝該当なし

平成 29 年 8 月 31 日

法規等の名称	対応・遵守状況	評価
静岡県 産業廃棄物条例	産業廃棄物管理責任者の設置 産業廃棄物委託先の実地確認（年1回5年間保存） 産業廃棄物収集運搬業許可期限 平成31年12月21日	○
廃棄物の処理及び 清掃に関する法律	対象建築物の分別解体、特定建設資材廃棄物の再資源化 1) 廃棄物処理(処分業者・運搬業者)との委託契約 2) マニフェスト発行 ・記載義務違反・虚偽記載 3) マニフェスト(B2,D,E票)の送付期限 B,D 票90日、E票180日 4) マニフェスト保管管理 A,B2,D,E票5年間保存 5) 交付状況報告(年1回、前年度分を毎年6月末報告) 6) 運搬実地報告 (有償運搬分のみ) 不法投棄の禁止、飛散・地下浸透の防止	○
建設リサイクル法	特定建設資材 (・コンクリート・コンクリートと鉄から成る建設資材 ・木材・アスファルトコンクリート)	○
温暖化対策推進法	温室効果ガスの排出量及び削減・吸収作用の保全、強化のために 当社として可能な範囲で処置を講じる。	○
騒音、振動規制法 (静岡県条例)	生活環境の保全等に関する条例第73条を配慮 工事対象の重機、建設機械等の届出(7日前)	—
家電リサイクル法	家電製品廃棄時に従う。 対象項目：テレビ、エアコン、冷蔵庫、洗濯機等	—
自動車リサイクル法	自動車廃車時に従う。	—
静岡県条例	ゴミは分別して条例に従う。	—
資源有効活用促進法	対象項目：パソコン等	—
フロン排出抑制法	空調室外機の簡易点検（3カ月に1度）	○

**⑨ 違反、訴訟等の有無**

過去40年間(創業以来)の違法事項は有りません。  
行政及び近隣からの訴訟は創業以来有りません。

平成29年8月31日

環境管理責任者 金谷太一

**環境コミュニケーション記録****\*平成28年度**

平成28年9月1日から平成29年8月31日までの一年間、  
本社及び工事現場周辺住民からの苦情、要望等は有りませんでした。

No.	受付日	情報提供者	情報の内容	区分(○印)	処置内容	外部対応	別記録有無
1				苦情・苦情以外		要・不要	有・無
2				苦情・苦情以外		要・不要	有・無
3				苦情・苦情以外		要・不要	有・無
4				苦情・苦情以外		要・不要	有・無
5				苦情・苦情以外		要・不要	有・無

**緊急事態の想定及び対応手順**

<b>想定される 緊急事態と その原因</b>	①作業中、重機に岩が当たり油圧系等を破損し、重機から油漏れ。 ②工事による汚濁水汚染の流出。 ③工事車両・重機等による近隣住民への排出ガス問題発生。
<b>想定される 環境影響</b>	①土壌の汚染、水質の汚染、火災の発生。 ②河川の汚染、火災の発生。 ③大気の汚染。
<b>予防策</b>	①安全第一を心がける、定期点検、タンク栓の点検。 ②工事箇所、下流にオイルフェンスを設置する、沈殿池を設置し段階的に希釈させ、綺麗になった水を流す、沈殿池に溜まった汚泥は取り除く。 ③排出ガス対策車を使用する、アイドリングをしない、回転は低速で運転する、定期点検を実地する、住宅付近での早朝、夜間の工事は避ける。
<b>対応策</b>	①エンジンを停止する、現場の安全確保、現場監督に連絡、指示を受ける。 ②エンジンを停止する、現場の安全確保、現場監督に連絡、指示を受ける。 ③エンジンを停止し作業を中断する、重機の点検を行う、乱暴な運転はしない（空ふかし、急ブレーキ）、近隣住民に工事の旨を周知する。  * 現場監督は状況を的確に判断し、関係機関に連絡し、指示を受ける。

**\* 緊急連絡先**

静岡南警察署

☎ 054-288-0110

徳州会病院

☎ 054-256-8008

石田消防署

☎ 054-286-2111

静岡労働基準監督署

☎ 054-252-8105

静岡地方气象台

☎ 054-286-3411

静岡市役所

☎ 054-254-2111

社員の安否確認を行う。

日常的に緊急時連絡体制を把握させる。

毎年9月に訓練を行う。

**教育・訓練の実施**

項目	内 容		内 容
テスト区分	A. 定期テスト B. 臨時テスト	想定内容	③工事車両・重機等による近隣住民への排出ガス問題発生。
実施日時	平成28年9月1日(木) 8:00~8:30		
実施場所	資材置き場	参加者	金谷国政、金谷太一、海野国秀、望月亮太、名倉竜次、金谷優弥、
使用器具	4t ダンプ、重機、 携帯電話		
問題点	エンジン停止、住民への対応⇒再発防止対策		
改訂の 必要性	有・無	改訂の 時期	(改訂の必要ある時に記載)

環境への取組を適正に実行するためには、必要な教育・訓練を実施する。

- 全従業員：環境問題の現状やエコアクション21における環境への取組の意義等  
環境目標及びその環境行動計画の内容、手順  
担当する業務に関連した環境目標及び環境行動計画の内容、手順  
法規制の詳細、遵守手順
- 管理職：各自の役割、責任及び権限  
環境経営システムの概要  
環境への取組を行う意義  
部門の環境目標及び環境行動計画の詳細

実施日	内 容
平成28年 9月1日(木)	環境への取組状況の確認、緊急事態の想定 対応 訓練
平成28年 9月30日(金)	環境への取組状況の確認
平成28年10月31日(月)	環境への取組状況の確認
平成28年11月30日(水)	環境への取組状況の確認、27年度反省、対策
平成28年12月28日(水)	環境への取組状況の確認
平成29年 1月31日(火)	環境への取組状況の確認
平成29年 2月28日(火)	環境への取組状況の確認
平成29年 3月31日(金)	環境への取組状況の確認
平成29年 4月2日(金)	環境への取組状況の確認、28年度前期反省、対策
平成29年 5月31日(水)	環境への取組状況の確認
平成29年 6月30日(金)	環境への取組状況の確認
平成29年 7月31日(月)	環境への取組状況の確認
平成29年 8月31日(木)	環境への取組状況の確認、緊急事態の想定及び対応手順訓練

## ⑩ 代表者による全体評価と見直しの結果

## 全体評価

今期は売り上げが減少した為に、二酸化炭素排出量自体は減少した。今後も必要最低限の使用量で運営できるように努めていく。

## 見直しの結果

見直し項目		変更の 必要性	「有」の場合の指示事項等
1	環境方針	無	全員に周知されている。
2	環境目標・計画	無	26年度実績ベースを推奨する。 グリーン購入は数値化する。 燃料は絶対値でも比較する。
3	環境活動計画・取組項目	無	
4	環境に関する組織	無	
5	その他のシステム要素	無	
6	その他（外部への対応等）	無	

。

平成29年11月30日

株式会社 栄和土木  
代表取締役  
金 谷 国 政